

歴史的資源を活用した地域活性化

金沢市伏見台公民館 館長 富樫 治男

I はじめに

私たちが住まいする伏見台地区は金沢市中心街から南方六kmに位置し、ここには、三千八百世帯、約一万九千人が居住する新興住宅地です。

当地の歴史を紐解くと中世の守護富樫一族が統治しており、その史跡や風習、民話、芸能が数多く残されております。

特に、室町時代の加賀一向一揆（長享の乱）の合戦場となった高尾城址とその周辺施設や、当時に発祥したと伝えられている「高尾じょんから踊り」、「富樫しんこう踊り」などが伝承されている地域であります。

II 歴史資源の活用

一 歴史研究会（いきいき探訪教室）の開催

当地に住住する人々の大半は、戦後の高度経済成長にもない転居されてきたもので、加賀一向一揆の地であることは承知しているものの、戦いの経緯や状況に興味を持つ方々が多く、また、公民館で調査研究する要望も多く、富樫一族と我々が住まい

する地域の関わりについて平成二十一年度から二十五年度の五年計画で「いきいき探訪教室」を開催しました。

同教室では坂本善昭氏をコーディネーター、小林忠雄北陸大学教授等を講師として招き、富樫一族のルーツや史跡めぐり、我が地域との関わりについて調査するとともにハード部門では、高尾城址見晴台の整備を金沢市の支援をいただき実行した。会員は約八十名で年約五、六回開催し、二十六年、二十八年にかけて教室五年間の集大成としてDVDの制作に取り組んでいます。

二 調査結果「富樫一族とは」

奈良時代の天智天皇に使えた藤原鎌足の流れをくむ加賀齊藤氏の一族で、藤原利仁が始祖（奈良）と言われている。

四代忠頼の時代（平安）には「芋掘藤五郎伝説」によると金沢地名の由来がある。山科の住人藤五郎が湧き水の金城壺沢で砂金の付いた芋

（自然薯）を洗ったことから「金洗いの沢」金沢と地名が付いたと言われている。

また、藤五郎が住まいする周辺には京地名が多く存在してあります。山科、伏見、高尾（高雄）等で藤五郎誕生の京地名を付けたと言われている。

七代家国の時代（平安）には野々市に館を構え富樫介を名のる。これまでは、在庁官で加賀介と名のり京で加賀を統治していました。

十二代泰家の時代（平安）には、源平勢力争いで源氏に加勢し、平家没後には安宅の関守となり歌舞伎「勧進帳」であまりにも有名になっております。しかし、安宅の関の存在自体は定かでない。

十四代家尚の時代（平安）には大日山大乘寺を菩提寺として、野々市に建立した。その後、富樫一族没後加賀藩によって大乘寺は木ノ新保↓本多町↓長坂町（現在）と変遷をとげております。

十七代高家の時代（室町）

には、足利尊氏の命により初代加賀守護に就任しました。二十代満治の時代（室町）には、加賀は二国化（南北に二分）され、富樫氏の内紛が始まりました。

二十四代政親の時代（室町）には、蓮如上人が普及した真宗本願寺派と高田派の宗教対立が領地で激化し、弾圧に転じたものの、一向宗徒による反乱（一向一揆）に弱い弱冠三十三才で高尾城で自刃した。皮肉にも一揆軍の総大将は政親の大叔父である泰高であり、再度守護職に復帰したもののかつての勢力は失われており、その後守護職は続くが二十七代晴貞が織田信長勢に滅ぼされ、ここに名実とも富樫氏本宗家は滅亡しました。

三 高尾城と高尾町

高尾城の麓には現高尾町の集落があり、古老の言い伝えでは武家集落であったと言われている。高尾町地内には字名での場、馬場、馬替、長土堀、城上、寺下、守安等武

家集落に在る地名が存在している。

また、宗派では約九十戸の家集落の内、浄土真宗、禪宗、日蓮宗に区分され、それぞれほぼ三分の一に分けられ、しかも同宗派でもお手つきの寺が相違することから、一向一揆で敗退した武家集落に一向宗徒が居住したものと推測されます。

よって、高尾町集落は、高尾城を管理・防衛する武家集落であったと理解できます。

Ⅲ 地域活用

一 高尾城址見晴台

高尾城址は昭和四十五年北陸自動車道の造成工事土取場として県が採土したことにより最頂部を残して大半は破壊され、当時の面影は失われていた。

唯一の残地も竹や雑木が繁茂荒廃していたが、せめて当時の眺望を確保するために県教育センター、金沢市の支援を得て当会で整備しました。

整備は平成二十一年度～平成二十四年度にかけて、伏見台公民館ボランティア約六十名にて実行、二十一年度は山頂部（標高百七十二m）約五百mの竹、雑木の伐採処理、二十二年度～二十四年度



は見晴台登山道整備（東側ルート・ボランテア、西側ルート・金沢市）で階段の造成が主でありました。平成二十四年度末に完了したが見晴台からは石川平野、加賀小松方面、能登方面が眺められ、山城としては最高の



条件であり、当時の眺望を楽しむことができます。

高尾城址山麓にはソメイヨシノ桜の大木が五百本植栽されており毎年四月上旬には金沢市内からの大勢の花見客で賑わっております。



二 金沢南部丘陵歴史夢街道

高尾城址見晴台は富樫丘陵の中央に位置しているが、調査を重ねるうちに富樫丘陵一帯に中世～近世の史跡、重要文化財、国指定天然記念物等が十五箇所存在することが判明しました。

これらの拠点を有機的に結びつことにより、観光資源、散策コース、市民の憩いの場、歴史学習の場として活用されることが期待されます。

Ⅳ おわりに

このことから野田山（四十万霊宝山）に六kmに關係する五公民館で推進協議会を設立し、同協議会で拠点への案内看板、説明看板設置を金沢市に要望しました。平成二十五年度に金沢市の認可を受け、二十七年完成を目標に事業を実施している。事業完成までに五公民館で一名以上のボランティアがイドの養成も同協議会で実施しております。

私たちが住まいする地域の歴史を調査することにより、新しい発見が数多くありました。このことは、コーディネーター、講師の先生方はもとより、会員の皆さんの熱意とご理解の賜物と感謝いたしております。この成果は平成二十八年度に完成予定のDVDに収録して、映像で後世に伝えていく所存であります。ご協力有り難うございました。